スローツーリズムによる地域振興

～スローツーリズムの創出手法の検討～

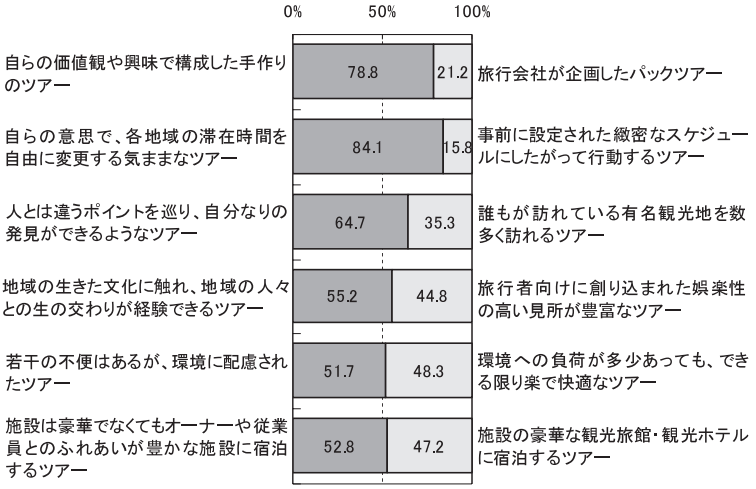
社団法人中国地方総合研究センター　吉　原　俊　朗

はじめに

これまでの観光政策の主な対象であったいわゆるマスツーリズムに対して、ニューツーリズムやオールタナティブツーリズムと呼ばれる新しい形式のツーリズムが注目されるようになってきた。観光客の国内観光旅行ニーズは、以前のように大型バスで幾つもの有名観光地を観て回る旅行から、個々人の価値観や興味を出発点とする目的型観光や、地域の文化に触れ、地域の人々と交流する地域密着型の体験型観光へと変化してきている（図表１）。この背景には､環境に配慮した持続可能性を意識した観光（サスティナブルツーリズム）や体験型観光などのニーズの高まりとともに、地域の自立を目指す自治体において幅広い産業への波及が見込める観光産業への期待の高まりがあると考えられる。

本稿では、地域の潜在資源を掘り起こし、体験や交流などを中心とした旅のスタイルをスローツーリズムと呼び、各地域におけるスローツーリズムの創出手法について検討するものである。なお、本稿は平成17年度「環境負荷に配慮した瀬戸内海スローツーリズム創出調査」（中国運輸局より委託）の調査結果の一部を加筆・編集したものである。

図表１　今後の国内観光旅行で重視するポイント



※ウェブアンケート（平成18年３月実施、首都圏・関西圏に居住する600人を対象）による調査結果
（資料）平成17年度環境負荷に配慮した瀬戸内海スローツーリズム創出調査報告書

１．スローツーリズムの創出モデル

（1）スローツーリズムとは

スローツーリズムについて明確な定義は定まっていないが、環境負荷に配慮した瀬戸内海スローツーリズム創出検討委員会がとりまとめた「スローツーリズムの手引き」では、その理念として以下の３点を挙げている（図表２）。

○ゆったりと良いものを味わう旅であると同時に、人々が地域に残るスローな生活文化にふれて、その価値を再確認する『スローな文化への志向にこたえる旅』（社会的な位置づけ）

○ゆっくり、のんびりと街の風情を体感しながら、心のおもむくままに、自分なりの時間を楽しむ『個人的で自発的な意志にもとづく旅』（どんな旅か～旅行者の意識）

○人々や土地の文化に触れ、交流を重ね、地域のなかの本物を再発見・再確認し、お互いの元気につなげていくことができる『人々や文化とふれあう旅』（何をする旅か～観光の対象）

また、実際に旅をする旅行者側からスローツーリズムを考えると、スローツーリズムで旅をするスローツーリストの行動欲求（習性）として以下の５点が挙げている（図表３）。

○お仕着せ・駆け足のルート、プログラムを嫌う

○時間にしばられたくない

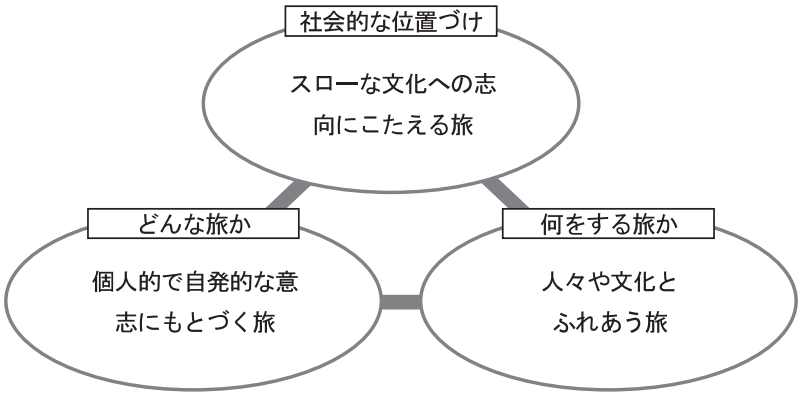
○人とは違うものを発見したい、違う体験をしたい

○地域の生きた文化に触れたい、人と交わりたい

○何事も“スロー”でいきたい

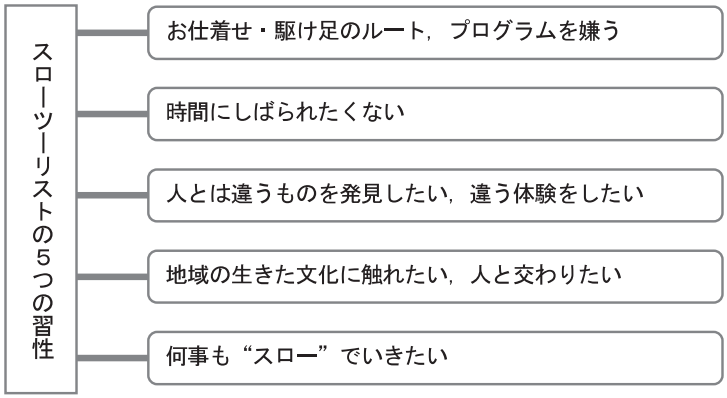
これらの理念を持つ旅やスローツーリストによる旅をスローツーリズムとして定義すると、スローツーリズムは、既存の観光地と呼ばれる地域だけでなく、これまで集客・交流に無縁であった地域においても、潜在する物的・人的資源の掘り起こしと商品化により展開が可能であり、地方都市の地域振興の新たな切り口として考えられる。

図表２　スローツーリズムの理念



（資料）「スローツーリズムの手引き」環境負荷に配慮した瀬戸内海スローツーリズム創出検討委員会

図表３　スローツーリストの行動欲求（習性）



（資料）「スローツーリズムの手引き」環境負荷に配慮した瀬戸内海スローツーリズム創出検討委員会

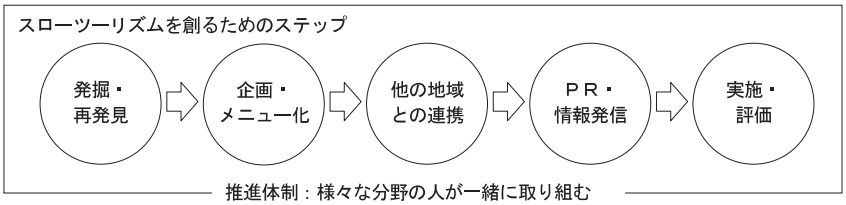
（2）スローツーリズムの創出モデル

上記のようなスローツーリズムを地域で推進していくためには、既存の観光資源ではなく、地域の人や文化、風情、食べ物などを掘り起こし、実際に体験できるメニューを作成していく必要がある。また、一つの地域だけでは魅力が乏しい資源でも、他地域との連携により大きな魅力を持つものも存在するため、スローツーリズムに取り組む他の地域と連携したメニュー作成も欠かせない。そして、作成されたスローツーリズムのメニューを来訪者に対してＰＲし、実際に受け入れ、評価してもらい、よりよいメニューへと改善していくというステップが、スローツーリズムの創出に必要である。

また、スローツーリズムのメニューを発掘し、メニュー化していく段階においては、地域の様々な分野の情報が求められることから、地域の様々な分野の人が集まり、一緒に取り組む体制づくりが重要となる。

このような、スローツーリズムを創出するステップと体制をスローツーリズム創出モデル（図表４）とし、次章以降、瀬戸内海地域において実証実験を行った結果について記す。

図表４　スローツーリズムの創出モデル



２．瀬戸内海地域におけるスローツーリズム創出の試み

瀬戸内海地域には、穏やかで多様性に富む風土があり、人間的なスケールの中に人々

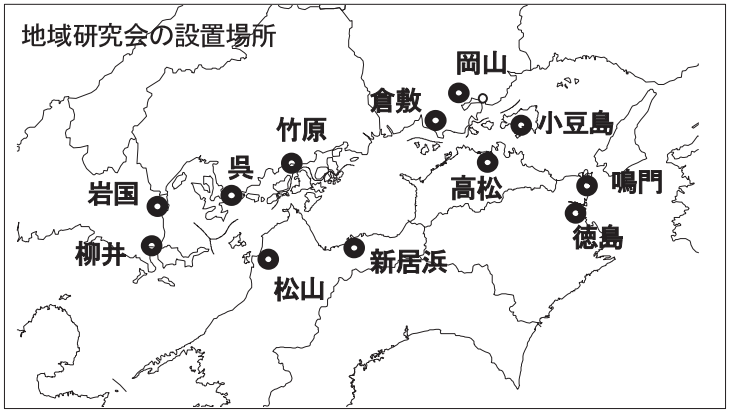
の暮らしがある、という点が大きな特徴といえ、日本の中でも特色のあるスローツーリズム地域となりえる可能性をもっている。そのような瀬戸内海地域においてスローツーリズムを推進するために、瀬戸内海沿岸12地域において、前章で述べたスローツーリズム創出モデルを適用した実証実験を行った。

（1）地域研究会の設置と運営

①地域研究会の設置

地域からのスローツーリズムの創出を図るため、瀬戸内海沿岸域の地域資源・集客交流サービスの熟度や実働可能な中核組織・キーパーソンの存在の把握を目的にアンケート調査を実施し、それらをふまえて各県２箇所、計12地域に地域研究会（スローツーリズム研究会）を設置した。地域研究会のメンバーはアンケートで把握された実働主体や関連業界団体、行政などにより構成される。

図表５　地域研究会の設置場所（瀬戸内海沿岸12地域）



図表６　地域研究会の構成メンバー（構成比）

メンバー所属	構成比※
ＮＰＯ、民間事業者など、スローツーリズムのサービスを実際に行う団体	54.2%
漁協、農協、商工会、商工会議所、ＪＣ、旅館業組合など関連業界団体	12.0%
観光協会	8.4%
自治体	22.9%
その他（学識経験者など）	2.4%

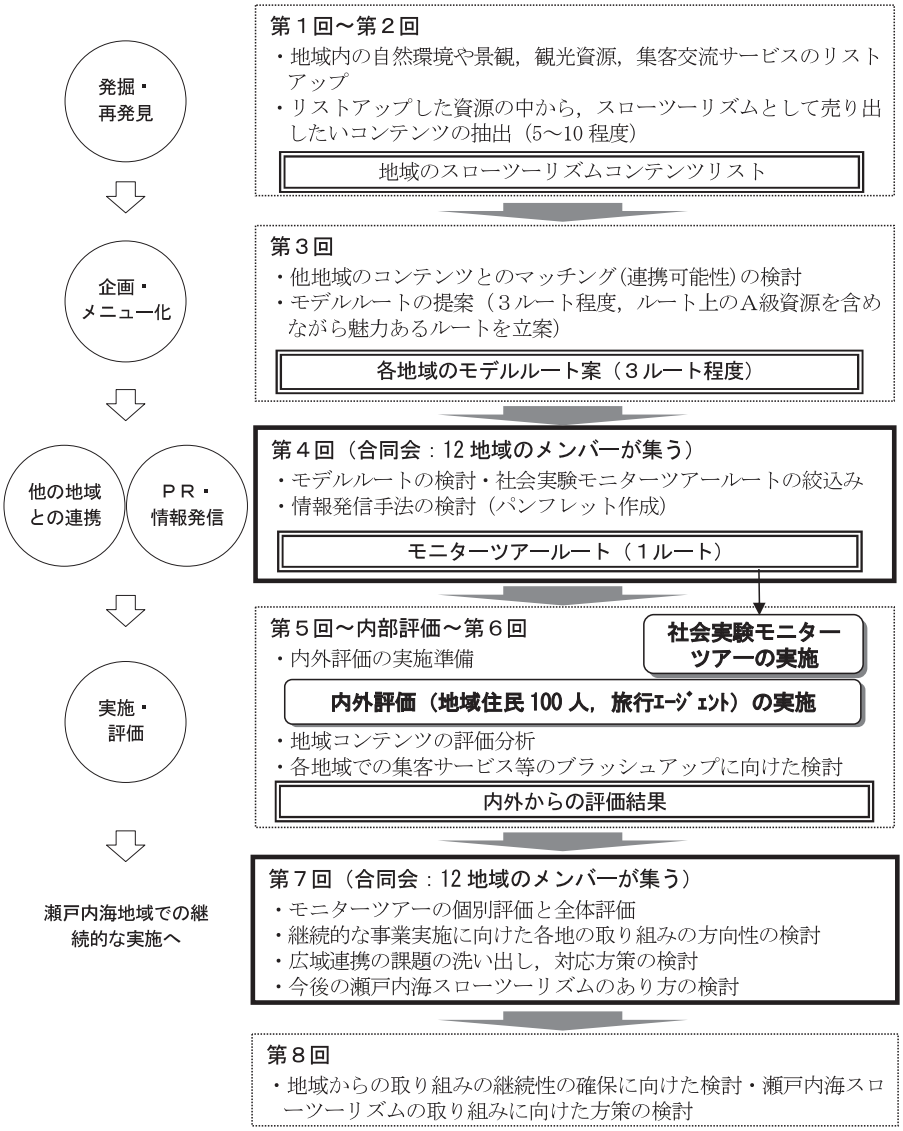
※構成比は12地域の地域研究会の全参加者に占める割合

②地域研究会の運営の流れ

地域研究会はスローツーリズムの創出モデルに基づき図表７のように開催した。最初に地域資源のリストアップを行い、スローツーリズムのコンテンツを抽出し、その後、

他地域と連携したモデルルートやモニターツアールートを選定し、それらの評価を行った。このような取り組みをふまえ、今後の地域のスローツーリズムの継続と、瀬戸内海スローツーリズムの取り組みについての検討を行った。

図表７　地域研究会の進め方



（2）スローツーリズムコンテンツの発掘

各地域において地域研究会を２回程度開催し、地域内の自然環境や景観、観光資源、ボランティアガイドなどの集客交流サービス、体験メニューなどをリストアップし、その中からスローツーリズムとして売り出したいコンテンツを抽出した（図表８）。各地域から多様なコンテンツのリストアップがなされ、これまでは観光資源として考えることが少なかった体験メニューや産業観光、地域の歴史や文化なども数多く挙げられている。

図表８　各地域のスローツーリズムコンテンツ

地域名	スローツーリズムコンテンツリスト
岡山	**【さわら】**岡山名物さわら料理を愛する会、岡山さわら連、さわらガイドブック、さわらの唄「SA・WA・RA・JA!」、さわら川柳 **【吉備路】**吉備津神社、吉備津彦神社、備中国分寺、備中高松城、最上稲荷、造山古墳、吉備路サイクリングロード
倉敷（児島）	**【繊維（メイドイン児島）】**有限会社キャピタル、株式会社ベティ・スミス　ジーンズミュージアム、有限会社らんぷ屋、高田織物株式会社、わがまま工房、せんい児島瀬戸大橋まつり、ジーンズバス **【歴史・文化】**由加山、源平合戦、野崎家旧宅、下津井節、樽流し **【食（メイドイン児島）】**うどん、お菓子、タコ、 **【景観】**鷲羽山、瀬戸大橋周遊観光船
呉	**【海軍を中心とした近代史】**大和ミュージアム、アレイからすこじま、映画ロケ地、土木遺構、防空壕跡、入船山記念館、旧海軍墓地　など **【観光ボランティア】** **【ＪＲ駅から登れる瀬戸内海の展望地】**灰ヶ峰、野呂山、天狗城山～絵下山～天狗岩、高烏台（音戸の瀬戸） **【移動手段】**船、ＪＲ呉線、ボンネットバス、旅タクシー、音戸の渡し、レンタサイクル（下蒲刈） **【朝鮮通信使ゆかりの施設】**御手洗町並み保存地区、長門の造船歴史館 **【体験】**漁業体験、塩づくり体験、醸造工場見学　など **【食】**屋台、肉じゃが等旧海軍関連の食
竹原	**【町並み・町並み保存地区】**松坂邸、頼惟清旧宅、春風館・復古館、小笹屋酒の資料館、藤井酒造酒蔵交流館、まちなみ竹工房、お抱え地蔵 **【史跡･歴史上の偉人など】**木村城跡と手島屋敷、宝筐印塔、製塩業、頼家、竹原小早川家、竹鶴政孝、池田勇人 **【瀬戸内海の多島美】**吉名鷹巣山、忠海黒滝山からの眺望、ミサワ瀬戸内ゴルフリゾートからの眺め、大久野島、吉名町郷地区の野井戸 **【集客サービス】**レンタサイクル、たけはら観光ガイド会、朝市、アヲハタ体験Jam工房、産業観光 **【酒造業】**酒造業、たけはらの水
岩国	**【歴史】**岩国藩主吉川家の歴史、おはんに描かれた大正ロマンの街 **【集客サービス】**観光ボランティア **【錦川の風景】**錦川、日本三大美竹林、羅漢高原 **【体験】**着物レンタル、桜舟、鵜飼い、あんどんを持って散歩、野点 **【食】**岩国寿司、茶粥、瀬戸内海・錦川を味わう料理、レンコン料理 **【移動手段】**㈱ 錦川鉄道・錦川清流線、バス **【宿泊】**温泉宿、体験付き宿泊
柳井	**【町並み】**白壁の町並み、むろやの園、国森家、佐川醤油蔵、やない西蔵、かけや小路、国木田独歩旧宅、大畠町住吉町・天神町・石神地区の町並み **【史跡・伝承・歴史上の偉人】**茶臼山古墳歴史の広場、源平合戦・周防国の合戦、般若姫伝説、僧月性 **【文化】**おひなさまめぐり、花実のない森、瀬戸山公園の万葉の句碑 **【景観・自然】**大畠の瀬戸の渦潮、大師山公園（88ヶ所巡り）、岩尾の滝 **【体験】**やない白壁花・香・遊、観光地引網、遊魚、火力発電所見学 **【食】**「白壁海鮮丼」と「般若御膳」、郷土料理 **【花】**やまぐちフラワーランド、大畠バイテクファーム

徳島	**【河川環境】**新町川、助任川、吉野川、徳島城跡と中央公園　など **【商店街】**駅前商業地、新町商業地 **【まち並み、景観】**徳島県庁前のヨットハーバー、指定文化財（建築）、眉山 **【体験、見学】**阿波踊り、ひょうたん島体験クルーズ、藍染め体験 **【食】**徳島ラーメン店、滝の焼き餅、地場の魚介類 **【移動手段】**レンタル自転車、バス交通、JR徳島駅 **【その他】**人形浄瑠璃、五ヶ所まいり（88ヶ所のお寺）、こくふ街角博物館
鳴門	**【歴史】**鳴門市ドイツ館、霊山寺（第１番札所）、鳥居記念博物館、紀貫之の歌碑、小宰相局の墓、人丸神社、あま塚 **【文化芸術】**大塚国際美術館、鳴門市賀川豊彦記念館、鳴門ガレの森美術館 **【体験】**大谷焼体験、屋形釣り、底曳網観光、シーカヤック **【見る・遊ぶ】**渦の道、エスカヒル鳴門、大鳴門橋架橋記念館、BANDOロケ村 **【グルメ・土産】**鳴門鯛、鳴門ワカメ、鳴門金時
高松	**【庭園】**栗林公園、玉藻公園（高松城址） **【商店街】**長いアーケード街（全長2.7kmは日本一の長さ） **【まち並み、景観】**県庁周辺の建物、まち並み、アート、サンポート高松 **【体験、見学】**地域の工芸（漆器、保多織り、提灯など）、うどん教室 **【食】**うどん店、「いただきさん」、讃岐らしい食物、そば、イノシシ **【移動手段】**レンタル自転車、琴電、うどんタクシー、JR線、船 **【海／瀬戸内海】**女木島、男木島、船 **【山／讃岐山脈】**塩江温泉、中山間部の自然景観、ホタル鑑賞、カブト虫採取、川遊び、牧場体験、そば打ち、竹細工 **【その他】**屋島、四国村、屋島の夕景、イサムノグチ庭園美術館、牟礼の石あかりロード
小豆島	**【地域産業】**醤の郷 **【景観】**寒霞渓、夕陽、朝陽Ｚ、山岳霊場からの眺望、小江のゲタ干し **【観光施設】**小豆島オリーブ公園（道の駅）、二十四の瞳映画村、岬の分教場 **【遍路】**小豆島八十八カ所霊場 **【集客サービス】**小豆島の産業を活かした食の分教場＆まち歩き、海のボランティアガイド、村復活運動 **【観光案内情報】**「小豆島とっておき情報」、「小豆島イベント情報」、「散策マップ」、「ぐるりマップ」 **【歴史】**大坂城残石公園 **【エコツーリズム】**海のエコツアー、山のエコツアー **【体験】**オリーブ収穫体験、もろみまぜ体験、素麺の箸分け体験 **【その他】**海水浴、釣り、潮干狩り **【食】**ゲタカレイの一夜干しと飴煮、イイダコの二夜干しとたこ飯、ワカメ料理、干しエビ **【移動手段】**船、小豆島岬めぐり周遊バス、島バスのんびりツアー
松山	**【温泉文化】**道後温泉、朝日楼・ネオン坂、芸能 **【文学の里】**子規堂、庚申庵、明教館、愚陀仏庵 **【明治を巡る】**松山城、三津浜内港とその界隈、四十島（ターナー島）、ロシア人墓地
新居浜	**【産業観光・別子銅山】**マイントピア別子、別子銅山記念館、広瀬歴史記念館、マイントピア別子、総合科学博物館 **【旧別子登山の景観】**小足谷醸造所、蘭塔場跡、歓喜坑 **【別子・翠波はな街道の景観】**清滝、別子ライン **【食】**大島白いも、ふぐざく、えび天・えびちくわ **【祭り】**太鼓祭り、瑞応寺

（3）他地域と連携したルートの検討

12地域のメンバーが集まる合同会を開催し、各地域においてリストアップしたスローツーリズムコンテンツを持ち寄り、他地域と連携することで魅力が増大する連携ルートを検討し、図表９に示すルート案を作成した。食をテーマにしたルートや、産業観光を巡るルート、瀬戸内海の歴史文化を巡るルートなど多様なルートが作成された。

図表９　他地域と連携したルート案

ルート及び キャッチフレーズ	ルート内容
①岡山～小豆島～高松 “瀬戸内海の食と自然を巡る”	・吉備路をレンタサイクルで周遊 ・夕食はさわら料理とさわら踊り（さわら連） ・醤の郷（小豆島池田町）をレンタサイクルでまわる（山や海へのオプションツアー有り） ・レンタサイクルで高松市内～栗林公園を周遊
②岡山～高松～鳴門・徳島 “やすらぎと知的体験　せとうちの旅”	・吉備路をレンタサイクルで周遊 ・夕食はさわら料理とさわら踊り（さわら連） ・高松では手打ちうどん体験と栗林公園 ・夜は阿波踊り体験とナイトクルーズ ・鳴門公園、大塚国際美術館、一番札所霊山寺
③倉敷～高松～鳴門・徳島 “足で楽しむせとうち天国！着にゃあソンソン食わにゃソンソン踊らにゃソンソン”	・倉敷美観地区を見学後、オーダーメイドジーンズ作りか源平ゆかりの地めぐり ・高松は街並みとうどん店めぐり ・徳島では阿波踊り体験、藍染め体験、ひょうたん島クルーズ ・鳴門ではうずしお観潮船と歩き遍路
④倉敷～新居浜～松山 “デニムと銅と絣の夢紀行　あなたの知らない瀬戸内と出会うたび”	・下津井の町並みとアパレル工場見学 ・鷲羽山からの瀬戸内海の眺望 ・マイントピア別子と広瀬歴史記念館など ・昼食はスローフードパーティー ・道後散策、砥部焼体験、絣染め体験、「坂の上の雲」めぐり、足湯めぐりなど
⑤竹原～倉敷～高松 “せとの多島美とまちなみの歴史めぐり”	・安芸の小京都竹原の町並み ・夜の大久野島で静けさと星空観察 ・倉敷美観地区見学後、ジーンズバスツアー ・鷲羽山で夕日と朝日を鑑賞・屋島と高松市内めぐり
⑥松山～呉～竹原 “松山・呉・竹原ノスタルジックストーリー ”	・坂の上の雲の世界回遊＋道後回遊 ・大和ミュージアムと戦艦大和の世界（ガイド付） ・呉では海軍ゆかりの料理や屋台料理 ・竹原の町並み保存地区を周遊
⑦松山～柳井～岩国 “南瀬戸内海ノスタルジックな旅”	・１日遍路体験と道後散策 ・宮本常一記念館に立ち寄り、柳井の白壁の町並み散策 ・吉川殿様コース、岩国寿司 ・大正時代の着物レンタルで城下町散策

（4）スローツーリズムコンテンツの評価

①地域住民による評価

ａ．コンテンツの評価

各地域で挙げたスローツーリズムコンテンツについて、それぞれの地域住民を対象にアンケートを行った。評価された点、認知度が低い点、魅力に乏しく課題として挙げら

れる点を図表10に示す。

住民による評価をみると、総じて海を感じる景観に対する評価が高い。特に山から海を眺める景観（鷲羽山、王子が岳、灰ヶ峰、野呂山、小豆島、新居浜など）の評価が高く、瀬戸内海沿岸の多くの住民にとって愛着のある多島美景観が各地にあることがわかる。今後の展開として瀬戸内海の展望地のＰＲや各地域での展望地管理が望まれる。

また、錦帯橋、道後温泉など有名観光資源の評価は高いが、それ以外は認知度が低いものも多い。また、課題として名物・特産品、食事、宿泊施設が挙げられているところが多く、スローツーリズム型観光地の魅力づくりのための共通の課題と言える。

体験メニューについては認知度が低いものが多く、地域住民が経験していないことがわかる。今後､スローツーリズムを進めていく上で体験メニューの充実が必要であるが、まずは地元住民が経験することも重要である。

ボランティアガイドについては評価されているところと認知度が低いところがある。評価を得ているところは、ボランティアガイドが住民にとって身近な存在であり、メンバー募集や支援について協力的であることがうかがえる。

図表10　地域住民による評価

	評価された点※	認知度が低い点※	課題※
岡山	・吉備路の環境（全体的な眺め） ・神社仏閣等の歴史的な景観 ・吉備津神社	・吉備路ぐるぐるバス ・造山古墳	・宿泊施設 ・アクセス・交通条件 ・食事（料理・食材）
倉敷（児島）	・国立公園 ・鷲羽山からみた眺め ・王子が岳からみた眺め	（該当無し）	・名物・特産品
呉	・大和ミュージアム ・海軍関係施設 ・観光ボランティアガイドによる案内 ・灰ヶ峰からの景観 ・野呂山からの景観	・御手洗町並み保存地区 ・漁業体験 ・塩づくり体験 ・豊の歴史の見える丘公園からの景観	・アクセス・交通条件 ・宿泊施設
竹原	・瀬戸内海の多島美 ・町並み保存地区 ・国道沿線からみた景観 ・JR呉線から見る景観	・定期観光バス ・乗ってみて竹原（レンタサイクル） ・たけはら観光ガイド会 ・アヲハタ体験Jam工房	・名物・特産品 ・宿泊施設 ・アクセス・交通条件 ・食事
岩国	・錦帯橋、錦帯橋と錦川の風景 ・観光ボランティアガイドによる案内 ・城山から見おろす風景 ・横山地区の四季の風景	（該当無し）	・名物・特産品 ・宿泊施設 ・アクセス・交通条件

柳井	・金魚ちょうちん祭り ・白壁の町並みの建物群 ・大畠瀬戸の渦潮と大島大橋の景観	・清狂草堂 ・月性展示館 ・大畠住吉 ・天神地区等の町並み ・岩尾の滝の景観	・アクセス・交通条件 ・宿泊施設
徳島	・阿波踊り会館、阿波踊り体験 ・ひょうたん島クルーズ ・眉山からの眺望 ・夜間の新川沿い河岸の景観	・瑞巌寺・観光ボランティアガイドによる案内	・アクセス・交通条件 ・宿泊施設
鳴門	・鳴門海峡の景観 ・うず潮、うずの道	・バルトの楽園	・祭り・イベント ・宿泊施設
高松	・うどん店 ・栗林公園	・イサム ・ノグチ庭園美術館 ・塩江のそばうち体験 ・栗林公園、玉藻公園のボランティアガイド	・宿泊施設・祭り・イベント
小豆島	・寒霞渓 ・瀬戸内海に沈む夕陽 ・山頂からの眺望	・食の分教場（楽迎員）	・アクセス・交通条件 ・宿泊施設 ・食事
松山	・道後温泉本館 ・松山城、松山城の景観 ・坊ちゃん電車 ・マドンナバス	・明教館 ・愚陀仏庵 ・ターナー島（四十島） ・庚申庵 ・三津の渡し ・子規堂 ・ロシア人墓地 ・久谷・砥部地区の景観	・集客サービス
新居浜	・マイントピア別子（端出場ゾーン） ・広瀬歴史記念館 ・愛媛県総合科学博物館 ・山から市街地を望む景観	（設問なし）	・名物・特産品 ・アクセス・交通条件

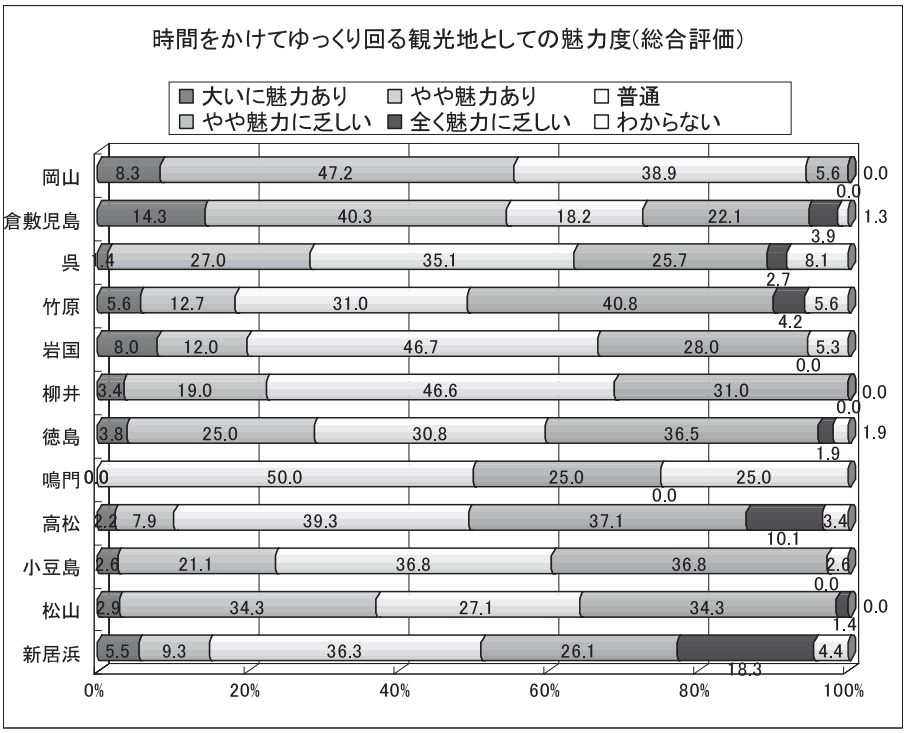
※上記に挙げた点の抽出については、下記の条件により抽出したが、各地域のサンプルの属性が異なるため、地域内の評価バランスも考慮に入れている。

（抽出条件）　○評価された点　：良い評価が70％程度以上
　　○認知度が低い点　：「わからない」が40％程度以上
　　○課題　：良い評価が20％程度以下、又は悪い評価が50％程度以上

b．総合評価

時間をかけてゆっくり回る観光地の魅力としては、岡山、倉敷（児島地区）では良い評価を得ているが、その他の都市ではあまり評価を得ておらず、全体としてスローツーリズム型観光地としての魅力が認識されているとはいえない（図表11）。

図表11　地域住民による評価



②専門家によるスローツーリズム的要素の評価

専門家により評価された点、改良すべき点は下記のようである。

a．評価された点

・展望地からの景観、船上からの景観、渡船の魅力、海の見えるドライブコースなど、瀬戸内海沿岸の景観

・吉備路や港町の風情ある景観

・ボランティアガイドの熱意、ホスピタリティ、イベントでの市民パワー

・現地ガイドの専門性の高い説明

・ジャムづくり体験、阿波踊り体験、オーダーメイドジーンズ、藍染め体験などの体験メニュー

・ボンネットバスの魅力など希少性の高いもの

b．改良すべき点

・観光地や公共交通機関へのわかりやすいサイン・案内

・訪れて欲しい場所（観光地）までのアクセスの確保

・ボランティアガイドの質（専門性、個別ニーズへの対応、有料によるプロ意識）と対応する体制（常時対応、少人数対応、連絡先明示）

・郷土料理の品数や提供の方法

・体験メニューの所要時間や体験内容などの明示・事前周知、ここでしかできない体験のＰＲ、土日対応

・イベントは特定日だけではなく、開催日の増加や一定期間とすること
・ガイドマップは地元の人しか知らない情報などを掲載するなど観光客を意識したものとし、携帯サイズとすること
・事故等に備えて保険付きとすること

c．まとめ

・瀬戸内海の景観については高く評価されている。展望地までのアクセスの整備や公共交通情報の提供が十分になされていない点が課題として挙げられる。また、船上からの景観なども評価されており、フェリーなど展望デッキのある船がスローという面からも注目される。
・ボランティアガイドの熱意や専門性の高いガイドは高く評価されている。今後は、一方的な解説ではなくお客様のニーズに合った解説やふれあいを大切にしたガイドなどガイドの質、常時対応や少人数対応などガイドの運営体制、連絡先や申し込み方法など情報提供などについて検討する必要がある。
・ジャムづくり体験、阿波踊り体験、オーダーメイドジーンズ、山岳霊場エコツアーなどの体験メニューの評価が高い。今後の観光は見るだけではなく体験のニーズがさらに高まると予想され、体験メニューの開発、受け入れ体制の構築などが重要になってくる。また、ジャムづくり体験の指導者がやさしく丁寧なことや、エコツアーのインストラクターの丁寧な解説なども重要な要素である。
・地域独自のイベントについても評価が高くなっている。人気のあるイベントについては、特定日だけでなく、１週間、年２回といった回数を増やすことも検討する必要がある。
・イベントや体験メニュー、景観などについて、希少価値の高いもの、そこにしかないものが評価されている。地域の資源を再評価し、独自性のあるもの、希少価値のあるものをクローズアップして売り出すことを検討する必要がある。

３．実証実験の成果と今後の方向性

（１）地域研究会による実証実験の成果

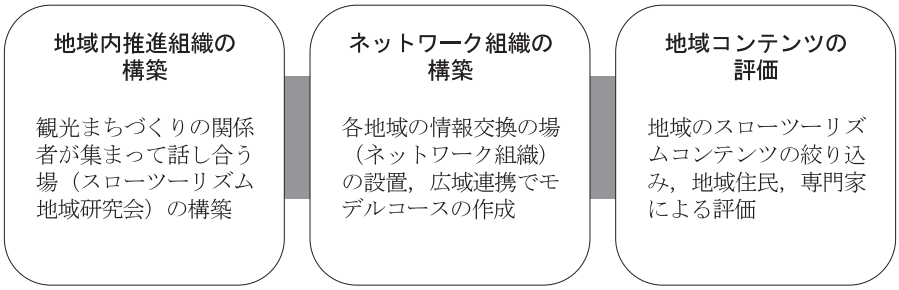
前章で述べた地域研究会の設立を通じた実証実験の成果として、各地域で、地域づくり活動や集客交流サービス事業などを行っている個人･グループ･ＮＰＯなどのキーパーソンや、行政団体、観光協会、商工会議所などが集まり、地域における人的ネットワークが構築されたことが挙げられる。

また、12の地域研究会のメンバーに集まってもらう合同会を２回開催し、各地域の情報交換・交流の場を設置し、これにより、地域からのスローツーリズム創出の競争意識を高めるともに、広域連携のためのソフトインフラが構築できたことも成果といえる。この合同会の中で、各地域の資源や集客サービス創出の取り組みの中から抽出された地域のスローツーリズムコンテンツを絞り込み、それらをつないだ瀬戸内海スローツーリ

ズムとしてのモデルコースを、地域が連携した形で検討・作成した。

その他の成果としてモデルコースの中から、モニターツアーコースを選定し、社会実験として実施し、一般観光客から評価を受けるとともに、各地域のコンテンツについては地域住民及び専門家より評価を受け、成果と課題を把握している。

図表12　地域研究会による実証実験の成果



（２）今後の取り組み方向

①地域内推進組織（地域研究会）

各地域の取り組み状況は一様ではないが、今後の方向性として以下の３つの方向で活動を継続していくことが考えられる。

○個々の活動を継続させ、同様のテーマで活動している他地域のグループと情報交換をしながら、地域のスローツーリズムを推進する。（テーマ別活動型）

○様々な活動をしている人を集め、地域研究会として集まることにより、地域内で情報を共有し、地域が一体となって地域のスローツーリズムを推進する。（地域研究会型）

○地域の情報を集約し、コーディネート機能を持った着地型エージェントを組織化することにより、旅行代理店と連携して集客したり、個人客への情報提供・案内などをしたりしながら、地域のスローツーリズムを推進する。（着地型エージェント型）

②ネットワーク組織

地域連携のレベルは様々であり、以下の３つのレベルについて、同時並行的に実施していくことが考えられる。

○「瀬戸内海スローツーリズム通信」を発行（メールまたはＦＡＸ）し、各地のスローツーリズム活動状況を瀬戸内海沿岸地域の方々に知らせるなど、情報共有の場づくりを図る。（情報共有型）

○食・遊び・歴史などのテーマ、あるいは地理的な条件などで、連携した集客ルートの形成や、一体的なＰＲ活動、相互交流活動などを、参加者が自発的に行う。（勝手連型）

○沿岸各地で活動している人を集めた「瀬戸内海スローツーリズム交流会」を沿岸各地で巡回開催し、各地のスローツーリズムを体験しながら、参加者同士の情報交換

の場づくりを図る。（情報交換型）

4．まとめ

以上を踏まえ、今後、スローツーリズムによる地域振興を推進していくために必要な受け入れ側のポイントとしてまとめると、先に挙げたような習性（行動要求）をもつスローツーリストを受け入れるために、これまでのツーリズムとは異なる工夫が必要であることがわかる。その工夫を考えるうえでは、受け入れ側の事情ではなく、それぞれのツーリストが、どうすれば気持ちよく、簡単に自分たちなりの旅を楽しめるか、ということに想像力を働かせることが重要である。そのためには、次のふたつのことが基本となる。

○観光用に特別に用意したものではないものを味わってもらえるようにすること
○直接のサービスだけでなく、できるだけ幅広い情報を提供し、ツーリストが自分で選択し、調達できるようにすること

従来のツーリズムとの対比でそのポイントをあげると、図表13のようになる。これらの受け入れ体制を継続的に運営していくためには、スローツーリズムの事業展開そのものを収益事業として組み立て、新たなコミュニティビジネスの種としていく、という姿勢は重要である。例えば、新たな集客サービスと成り得るボランティアガイドについても、一定の有償サービスとして必要経費はそのサービスの中で生みだしていくという方向があってよい。そのような意味でも、各地域のスローツーリズム推進組織は、着地型エージェント（旅行の目的地に立地する旅行業者）の確立を目指す必要があると考えられる。スローツーリズムの需要に応えられるようなサービスの組み立ては、まさに着地型エージェント機能に期待される役割である。

図表13　ツーリストの受け入れ体制、求められるサービス内容の違い

項　目	従来のツーリズム	スローツーリズム
資源メニューの提示のしかた	メニューを組み立てて作成したコースを提示し、旅行者がコースを選択する	何が楽しめるかのリストだけを提示し、旅行者がそれから選んでコースをつくる
移動のサービス	送迎、貸切バスなどの手配、時刻表の提供	個人的移動手段（自転車、タクシー、公共交通など）の提供、情報サービス
食事のサービス	地域の食材をいかしたもてなし料理	地元の家庭料理、スローフード
宿泊のサービス	通常の旅館・ホテル	長期滞在可能な低廉な宿泊施設、環境に配慮した宿泊施設
ガイドの必要性	専属ガイドが案内	ボランティアガイドが案内、セルフガイドのための親切な情報提供
ガイドの対象	一見してすぐにその価値のわかる歴史的・文化的・景観的資源	じっくり見て体験しないと価値のわからない歴史的・文化的・景観的資源
体験プログラム	決められた短時間で見学･体験の可能な、特別に用意されたプログラム	時間は不定であっても、実際の現場に参加できる本物の体験プログラム